

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆現況報告 CH17・CH02に特異前兆出現
直前特異である場合→12月02日対応地震発生の可能性有

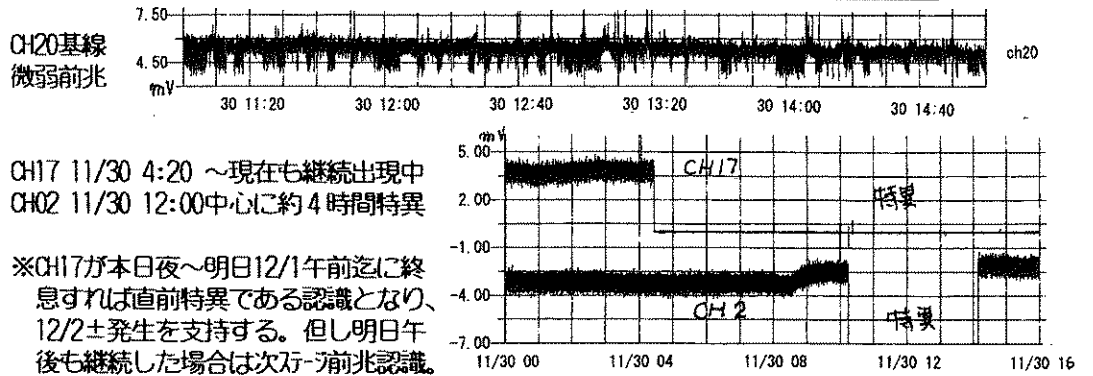
No.1778長期継続特殊前兆は第21万-認識。最終極大認識は、11/27この極大に対する前兆終息を確認すれば、第21万-が示す時期が、対応地震発生日となるか、次万-極大又は前兆初現となるかの判断ができる筈であることは前回報告致しました。

最後に残った微弱前兆のCH20が本日午前中に静穏化すれば、12/1発生が示唆されることとなりますが、右上波形のとおり、CH20基線は僅かに下向きのザビザビした変動が残り、まだ完全静穏状態ではありません。

また、右上波形のとおり、本日未明の4:20頃より八ヶ岳南麓のCH17に糸状特異が出現し、継続しています。さらに本日午前10時過ぎに八ヶ岳南麓のCH02にも糸状特異が出現しました。但しこちらは、午後02時過ぎに終息し、現在は静穏通常基線を記録しています。

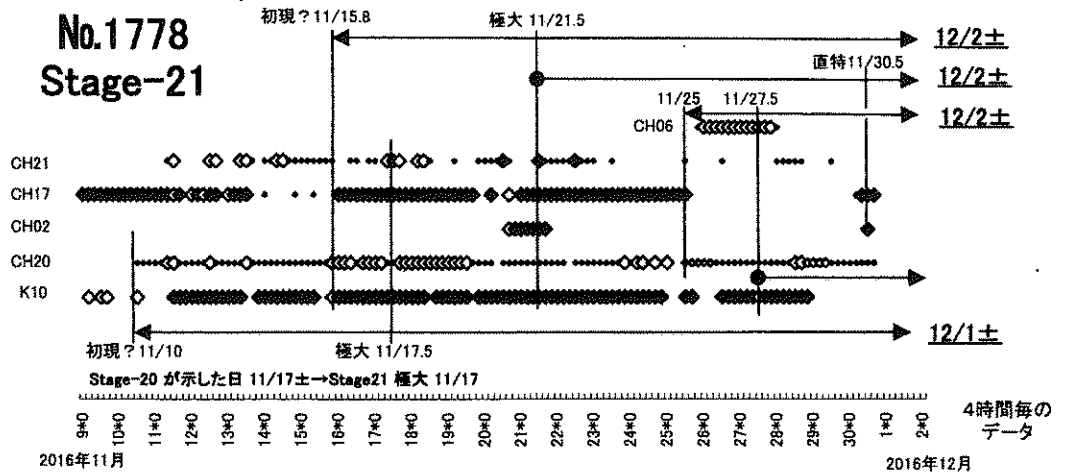
CH17とCH02の糸状特異出現で、次万-の前兆初現の可能性を考えましたが、CH02特異が本日昼を中心に出現しただけで特異状態が消滅していることから、過去に出現した極大に対する直前特異出現の可能性が考えられます。

CH17とCH02が極大を形成しているのは、11/21.5 極大です。11/21.5 極大に対し、11/30.5 直前特異の関係は、 $1map:1pa=6:1$ 経験則から12月02日発生の可能性が計算されることとなります。



CH17 11/30 4:20 ~現在も継続出現中
CH02 11/30 12:00中心に約4時間特異
※CH17が本日夜~明日12/1午前迄に終息すれば直前特異である認識となり、12/2±発生を支持する。但し明日午後にも継続した場合は次万-前兆認識。

No.1778 Stage-21



仮に12月02日発生の場合には、現在継続中のCH17特異は明日午前中迄に終息する筈です。また微弱前兆のCH20も明日午前中迄には終息する可能性が示唆されることとなります。

明日12月01日午後時点で、CH17特異が継続し、またCH02に糸状特異が再出現する

等などした場合は、次万-前兆認識となり、発生はまだ先となります。但し、CH17特異もCH20微弱前兆も明日12/1昼迄に静穏化した場合は、12月02日、対応地震発生の可能性が示唆されることとなります。

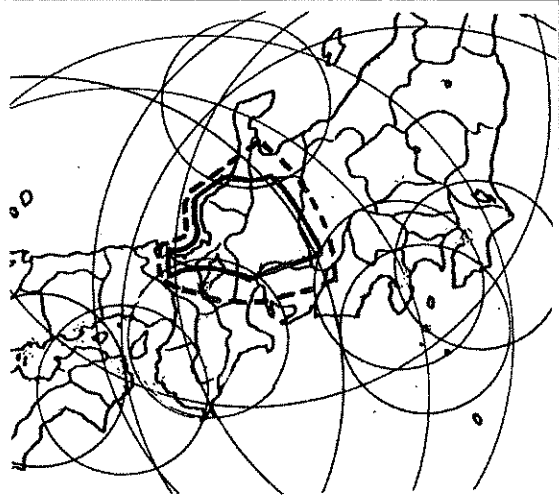
◆推定領域：右図点線領域内付近=大枠推定領域
大線領域内付近=可能性考え易い推定領域
※岐阜県~福井県(石川県南部と滋賀県北部含む)

◆推定規模：M7.8 ± 0.5

◆推定時期：12月2日(誤差含め4日迄)
※但し、12月01日に前兆終息の場合に限る。
12月01日午後、前兆継続の場合は再考し続報

◇推定地震種：震源深さ30km以浅の日本列島地殻地震

◇推定発生時刻：午前9時±1(又は午後6時±3)
(前震発生の場合は無効)



※解析間違いで地震推定内容が実際と異なる場合はお詫び申し上げます。